

ミルクボーイ／咲くやこの花インタビューvol.28

ミルクボーイ【令和2年度 大衆芸能部門[漫才]】

駒場孝(こまば・たかし) 内海崇(うつみ・たかし)



言わずと知れた漫才頂上決戦『M-1グランプリ 2019』(以下M-1)の覇者、ミルクボーイ。通算 10 回目の出場で初の決勝進出を飾り、「コーンフレーク」ネタで歴代最高得点の 681 点を記録。日本中を爆笑と興奮の渦に巻き込み、最終決戦の「最中」ネタでは審査員 7 人中 6 人の票を勝ち取り、見事優勝を果たしました。立ち位置は向かって右が、緑のダブルスーツに角刈りヘアが映える内海崇さん、左がマッチョなボディで青スーツをスポーティーに着こなす駒場孝さん。駒場さんが振る様々なギモンに、内海さんが否定と肯定のツッコミを繰り返す独自のリターン漫才が持ち味です。芸歴 12 年目で突如全国区となり人生を一変させたお二人に、当時の心境とこれからについて伺いました。

◎取材・文・撮影：石橋法子

「M-1優勝の余韻はまだある。いつまでも嬉しい感じですね(笑)」

「咲くやこの花賞」受賞おめでとうございます。

内海崇(以下、内海):ありがとうございます。大阪で活動すると言ってたんで、大阪市の賞と聞いて嬉しかったですね。

駒場孝(以下、駒場):大衆芸能部門の歴代受賞者の方を改めて見たらすごいなと。第1回の桂文珍師匠に始まって、その流れに自分らの名前が載るのはミルクボーイとしてめちゃ嬉しいことやなと思いました。漫才コンビとしては平成13年(第19回)のますだおかださん以来約20年ぶりぐらいなんですね。



ミルクボーイさんに対する期待の表れとも言えそうです。

内海:だいたい大阪の若手が獲れる賞って芸歴10年目ぐらいまでなんです。僕らもM-1と吉本(興業)の「上方漫才協会大賞」は獲らして頂いたんで、あとは「上方漫才大賞」とかぐらい。権利が残っているものが少なくなってくるので、やはりこういう賞を頂くと励みになりますね。

M-1優勝から約1年が経ちました。いまだ余韻は冷めやらず?

駒場:まだありますね。いつまでも嬉しい感じです(笑)。

内海:僕リビングの棚にトロフィーとか飾ってるんですけど。M-1優勝後も去年は第5回「上方漫才協会大賞」話題賞、今年は第6回「上方漫才協会大賞」大賞も獲らしてもらって、なんかトロフィーが増えていつて。普通に目に入る所にあるので、実感が湧きますね。「咲くやこの花賞」は賞状を駒場が、僕がトロフィーを頂きました。棚が小っちゃすぎて今は上に乗せて飾ってます。

M-1優勝前は、日中は17時までバイト、その後は大国町にある「珈琲館サモア」で22時ごろまでネタ合わせするのが習慣だったとか。今はその生活も様変わりで。

内海:そうですね。ふたりで一緒にバイトとかもしてましたが、それも辞められましたし。冷静に考えたら、ホンマに一夜にして様変わりという感じですね。

駒場:これまでは大阪でもある程度知名度がある中でM-1優勝する人が多かった。けど僕らは違ったので、多分変わり方は一番大きいかなと思います。

M-1の優勝に前後して様々なタイトルの獲得が続きました。何か流れが変わるきっかけがあったのでしょうか。

内海:2019年に初めて全国ツアーをユニットライブ「漫オブーム」(※1)でやらしてもらったんですよ。広島、沖縄、福岡にも行かせてもらって。そこでちょっと全国の人にでも分かるネタをと、変えました。関西でしか伝わらないボケも意識的に省いて。2018年も面白いネタとかあったんですけど、「東京の人は分からない」みたいな感じがあって、M-1とか賞レースでは使えなかったの。

※1「漫オブーム」=ミルクボーイが主宰し、毎回レギュラーゲストにツートライブ、金属バット、デルマパンゲの3組を迎えて行う合同ライブイベント

伝わらないのは、具体的な地名や固有名詞が？

内海:例えば、屋台などで売っている「たまごせんべい」。えびせんの上に目玉焼きが乗ってるやつ。あれが「食べにくい、絶対落ちてまう!」というネタがあったんですけど(笑)。名古屋にはあっても、関東にはないらしいですよ。それやったら最初から全国の人が分かるものを作ろうと、2019年から変えました。ネタ作りで言ったらM-1優勝後の1年がそれまでよりも大変でした。漫才の回数がめっちゃめっちゃ多かった。テレビ番組だけでなく、舞台やCM、イベントなんかでも出るたびに漫才してもらって。考えたネタの数も一番多かったの。色んな賞でM-1後の頑張りが評価して頂けたのが嬉しかったですね。

ミルクボーイさんのM-1優勝は、2018年大会の覇者、霜降り明星さんが自身のラジオ番組で「めっちゃアツイ」「芸人としてカッコいい!」とコメントするなど、とりわけ関西の芸人さんたちの祝福ぶりがアツかったように思います。

内海:僕らも霜降りはすごいなって思いますね、やっぱり。若くして色々多彩ですし。霜降りが僕らの前の年にM-1優勝して、初めて後輩が優勝したんです。それでももっと頑張らなアカんな、と思いましたし。結構あいつらもネタ合わせとかやってたんですよ。いつ見てもやってた。皆が集まるフェスみたいな現場でも、他がワーワー騒いでる中、隅の方で多分違う舞台のネタ合わせやと思うんですけど、してたの。結

局やってるんやな、っていうのがあって……。ミルクボーイって、結構芸人さんの中では面白いとは言われてたんです。けど結局「日の目を見ないパターンやろな」って、皆さん思ってたと思う。僕らも思ってたところがあったし。けど、頑張ったらいけたという。皆さんにも「結局イケるんや！」っていう部分で、盛り上がって頂いたんかなって思います。

「結局頑張ってる人がみんな報われたらいいなって、マジで思ってます！」

お二人は、同業者の活躍は意識される方ですか？

駒場：M-1優勝する前は、とくに後輩とかがテレビに出てたら嫉妬もしてました。同期が出てたら、自分は家でテレビ見てるんや、とか思ってむちゃ嫌でした。

内海：正月とかね。いまの奥さんと付き合ってた頃、彼女の実家でテレビを見てて、お笑い番組に他の芸人が出てたら、そういう気持ちになってましたね。それでコンビ仲が悪くなることはなかったですけど、この先どうなるんやろうという思いはずっとありました。でもM-1獲ってからはマジで、「みんな売れたらいいな！」って思うようになりました。結局頑張ってる人がみんな報われたらいいなって、マジで思ってます。



念願のグランプリを獲得した今、次の目標は？

内海：NGK(なんばグランド花月)の大トリを務めたい、というのはあります。

駒場：大師匠たちみたいになりたいですね。実現するには？ ウケ続けるしかないですね(笑)。でもM-1獲ってからのの方がハードル上がりました。チャンピオンが出て来るというプレッシャーもあり、以前より緊張

するようになりました。スベったら恥ずかしい。前まではお客さんからしたら「知らん奴がスベってる」だけやったから、いいんですけど。今は「チャンピオンやのにこれくらい？」とか思われてるんちゃうかなとか思うので。でも、めっちゃ良い緊張感なので、忘れたらアカンなと思いますね。

駒場さんはトレーニングで身体作りをされているので、目標に向かって計画立て行動することが得意そうです。

駒場: あ、ムキムキにゴールはないんですよ。でも確かに、漫才も“ゴールがない”という意味では一緒かもしれないですね(笑)。

内海さんは、チャンピオンの看板についてはどうお感じですか？

内海: 今日も若手のライブで最後に出さしてもらって、そういう意味ではスベられへん。緊張もしますが、ただ出たら堂々とじゃないですけど、そういう存在ではありたいなと。

ファン層に変化はありますか。

内海: そもそもファンの方がそれまでいなかったの(笑)。こういう方がファンでいて下さるんだというのが、目に見えて分かるようにはなってきましたね。今は新幹線の移動でグリーン車を使わせてもらうこともあって、そこでご年配の乗客の方に声を掛けて頂いて、良い手帳にサインさせてもらったり。多分社長さんだと思うんですけど(笑)。CMの現場とかでも偉い方に「好きなんです」と言って頂けたりして。そのあたりの年代の方に結構刺さってるみたいです。若い子には全然ハマってない。

駒場: これが、ホンマなんです(笑)。

では若者をターゲットにすると、一段と人気が拡大するのでは？

内海: いや、ハマらないですよ～。もともと同世代に向けてネタを書いてたんで、10代後半から20代前半がごっそり抜けてる感じはあります。でもグッと下がって、ちびっことかには人気があるんです。

ファンとの出会いに加え、漫才を続けて来て良かったと思える瞬間がたくさんあると思います。最近ではどんなことが思い出されますか？



駒場: 去年ですけど、松本(人志)さんと初めてお食事に行かせてもらったのがホンマに嬉しかったですね。番組の後にコンビニで誘ってもらって。それこそ僕、ずっと松本さんのラジオ、ビデオ、DVDから全部見てたんで、もう神様みたいな感じで。その人が目の前でお話されてて、僕もその話に入れる状態にあるってことが、めちゃくちゃ嬉しかったですね。ずっと思い出してます、はい(笑)。

内海: (ビート) たけしさんとかも毎回お会いする度に声を掛けて頂けるので、ありがたいですね。「風邪ひくなよ」とか、めちゃ優しいです。そうやって今まで直接お会いすることができなかった先輩方にお会いできるのは、やっぱり嬉しいことですね。

「面白いと思うものが一緒。普段は好みも、着替えの早さも正反対です」

お二人とも、小さい頃からお笑い好きだった？

駒場: 僕は小学生の頃から好きでした。吉本新喜劇が面白くて好きで、当時沖縄に住んでたんですけど現地では放送してなかったんで、大阪に住んでる親戚から録画したビデオを送ってもらって見てました。新喜劇とか漫才とか見て、その後はテレビで『ダウンタウンのごっつええ感じ』とかを見て、ダウンタウンさんにもめっちゃハマってました。小学生の頃の卒業文集にも「吉本(興業)に入りたい」と書いてたので。僕はそんな感じでずっとお笑いカッコいいなって思っていました。

友達からも「おもしろいヤツ」と言われて？

駒場: いや、全然そんな感じではなかったですね。だから親もびっくりしてました。そんなひょうきんじゃないのに、「夢そうなんや！」って(笑)。

ではお笑いに対する思いは、全部ご自身のなかで消化されていた。

駒場: はい。だから授業中とかでも発言はできなかったですね。「今これ言ったら、おもしろいやろな」とか考えてドキドキしてました(笑)。言いたいけど、言われへん。僕が言っても「誰がいうてんねん」みたいな空気になる気もするし。で、考えてたようなことをクラスの人気者とかが言ってウケたら「あ、やっぱそれでよかったんや〜」って思う。そういうのは、今でもありますけどね。

えっ、今でもですか。

駒場: テレビ番組とかで「これ言おうかな。いや、いま俺が言ってもな、声届くかな」とか思ってたら、前の方で別の誰かが言ってウケてるのを見て、「やっぱ言っといたらよかった〜」みたいな。

内海: 変わってないやん(笑)!

どちらかと言えば、引っ込み思案な性格で。

駒場: 多分そうでしたね。写真撮る時も、おかんから離れたら泣いてたって言ってたんで。その時から「おかん、おかん」と言ってたんで、ホンマに(笑)。だから芸人目指すなんて親からしたら、まさかやっと思ったと思いますよ。母親は関西ですけど、父親は関東の栃木出身の人なんで。それこそ高校卒業したら吉本の養成所のNSC(吉本総合芸術学院)に入りたかったんですけど、大学だけは行っておきなさいと言われて大阪の大学に入ったんですけど。その時も父親は「大丈夫か?」とうっすら反対してるような雰囲気はありましたね。僕自身はすぐに売れると思ってました。

幼少期からお笑いを吸収してきた自信もあって。

駒場: はい。自分の考えに間違いはないなと思って、それこそ「大学在学中の20代前半でテレビに出て…」とか、勝手に想像してました(笑)。実際はそんな甘い世界じゃなかったんですけど。松本(人志)さんが書かれた本の中に「俺を目指してるやつはお笑いの視力が悪い」みたいな言葉があって、「どういうことやねん?」「そんなことはないやろう」と思ってたんですけど。去年あたりからテレビに出さしてもらって、実際に松本さんと触れ合うようになってから、言ってた意味が分かったというか。全然手が届かん所におるな、目指してるという次元の人じゃないな、というのはすごい思いました。

片や内海さんは、どんな少年でしたか?

内海: 高校の時にたまたま新聞に「M-1甲子園が始まります」みたいな記事を見つけて。それまで何かやってたわけでもないんですけど、なぜか出たくなって、中学の同級生と出ました。予選でアカンかったんですけど。でも悔しい思いだけはずっとあって。大学では最初、アイスホッケー部に入ろうとして全然滑れなくてやめて、経験のあったソフトテニス部に少しの期間だけ入部してたんですけど、でも結局(駒場さんと

出会う)落語研究会に入ることになったんです。でも大学もシナリオライターになりたくて入ったので、ホンマに卒業後は漫才やってとかは思ってなかったですね。



面白いことを文字にして考えるのがお好きだった？

内海: 作文とかではボケたりしてましたけどね。それを「内海君、今日も面白かったよ」と先生が前で発表してくれたり。自分から人前に出て何かやるってことはなかったですけど、笑わすのは好きでした。だから小学生の頃は人気者というか、「面白い子」という認識はされてたと思います。

そんなお二人が大阪芸術大学の落語研究会で出会い、在学中の 2007 年に「ミルクボーイ」を結成されます。コンビとしては似た者同士ですか？

駒場: 好きなもんは違うか。そもそも僕は筋トレするけど、ギャンブルはしないですし。



内海: M-1までは二人で出会うときは、ネタ合わせばっかしてたんで。漫才に関しては一緒というか、面白いと思うものは一緒。でもM-1優勝後は仕事で毎日会うじゃないですか。ネタ合わせ以外の時間も会ってみると、普段は真逆ですね。例えば、衣裳に着替えるのも(駒場は)めちゃ早いですし。

駒場: バタバタしたくないというか。汗かきなんで、直前に来て汗をかくのも嫌というのもあるんですけど。でも本番の1時間前には一通り済ましておきたいですね。歯磨きも着替えも済まして、待ってきたい。

内海: 本番まで時間あるのに、これだけカッチリしてもうたらねえ。僕はギリギリというか直前に着替えたいです。ホンマに全然違う。お笑いぐらいですね共通点となると。

駒場さんがトレーニングを積まれるのは、体を鍛えることで心を整えたい思いもあるのでしょうか。

駒場: めっちゃありますね。トレーニングしたら体は疲れるんですけど、精神的には気持ちがいい。逆にしないとだるいし、頭の回転も悪いような気もする。去年は全然トレーニングできなくてしんどかった。仕事は嬉しいけど、トレーニングできないのがジレンマというか。それを2020年のM-1で優勝されたマヂカルラブリーの野田(クリスタル)さんが今体感されていて。野田さんもトレーニングをされるんですけど、ずっと行けてないと話されてて、「この1年は我慢してください。僕も同じでした」と言ってます(笑)。

ちなみに駒場さんはいつトレーニングされるのですか？

そうですね。僕は早起きして1時間半ぐらいトレーニングしたら、その後の1日がめっちゃすっきり過ごせる。野田さんは夜行く派で、トレーニングをして1日が終わるという流れ。それが今はできてないから「1日が終わった気がせん」と言っていて、その気持ちめっちゃ分かるなと。僕は朝が始まった気がしなかったの。トレーニングしながら何となく今日1日の予定を考える脳になってたんで、やっぱり仕事の前にすっきりするのは大事な時間やったんやなって思いましたね。

「最高峰と思える大阪で、なんばグランド花月に出続けられる漫才を目指していきたい」

ミルクボーイさんは人気者になっても拠点は大阪、コントではなく漫才をという思いが強いように感じます。

内海: コントはしたことがないですね。舞台ではホンマに数えるほどです。東京へ行かへんとか、大阪に残るとか、そういう感覚はなくて。大阪にNGKがあって、大阪の漫才が面白いと思ってるので、漫才するなら大阪というか。最高峰のところにおるわけやから、離れるのもおかしいなと思ってる。なのでNGKに出続けられるような漫才を目指していきたいですね。

駒場: 僕は中学、高校と横浜にいたんで「東京のNSCでもよかったやん」ってよく言われるんですけど。その当時面白いと思ってた人が大阪にいて、大阪のNSCに入ったので。今もその気持ちのままという感じですね。

漫才のどんなところに魅力を感じますか。

内海: ホンマにその時間は自分だけのもんというか。トーク番組とかやったら人の話もあって、そこに入っていく感じですけど。漫才の4分とか5分は僕らの話を聞いて貰えるっていうのが、やっぱりいいですよな。

駒場: 僕も一緒です。

ネタを考えて練習して、いざ本番。どの瞬間が一番好きですか？

内海: そらウケたときですよ！ 言ったら、そのためだけにずっと考えて作戦立てて、ネタ合わせして来るわけですから。「これ言うたらウケるんちゃうか」「笑わすぞ！」とやって、ウケたときですよな、やっぱり。だからスベった時はめっちゃ恥ずかしいですよ。だって、めつつつつつちや考えたんですよ(笑)。

駒場: 「聞いてほしい」という思いはずっとありましたね。M-1優勝するまで、聞いてもらえないことも多かったの。聞いてくれたら、まだ、もしかしたら、面白かったかもしれないのになって。今は聞いて貰えるようになったから、だいぶ楽ですけどね昔に比べて。

現在はテレビで拝見しない日はないほどご活躍です。トレードマークのお衣裳は替えを何着かお持ちなんですか？

内海: 今は7着かな。

駒場: デザインもまったく一緒ではなく、色だけ一緒であとは模様が入ったものがあったり、それぞれちよつとずつ違うんです。中にはプレゼントして頂いたものもあって。今日の衣裳は(里見)まさと師匠にプレゼントして頂いたものです。



内海: まさと師匠は「M-1の決勝に行けたら衣裳をプレゼントします」とずっと言って下さってて。

駒場: 優勝したら「好きなところで好きなもの買って来なさい。領収書だけ渡してくれたらええから」って。それで師匠がいつも作ってるお店を聞いて、そこで作らしてもらいました。他にも7着の中には色んなタイプがあって、今日の衣裳はパリっとしたいときに着る衣裳です。



内海: 2月の「咲くやこの花賞」の贈呈式もこの衣裳で出さしてもらいました。



それは光栄です。では今後やってみたいことは？

内海: 後輩のツートライブ、金属バット、デルマパンゲの3組のユニットライブ「漫オブーム」は続けていきたいですね。みんなでツアーを周ったり、ライブをしてきたおかげでM-1獲れたと思ってるので。他のメン

バーも「みんなで獲りたいな」と言ってるんで。みんながM-1タイトル獲れるまで、そして獲ってからもツアーは続けていきたい。

駒場：去年もツアーは組んでたんですけど、コロナでできなかったんですね。

内海：ほんとに今の僕らがあるのは「漫オブーム」のおかげなんですよ。漫才への意欲を一時期失ってた時があって、そこからもう一回漫才をやろうと思った時に、単独ライブをやり始めたんです。でもその頃にはお客さんの層が変わって来てて。僕らは攻めたネタをしたいのに、来てくれる人が違う層だったので、全然うまく行かなかったんですよ。やりたいことと求められていることが違ってた。それで目指してるネタが同じような漫才師ばかりを集めて、ユニットでやろうとなって「漫オブーム」を始めることになって。そしてたらお客さんもM-1の予選とかに来るようなお笑い好きの濃い層になって、そこから僕らも面白くなってきた感じだったので。

本当にやりたいことに、全力で取り組める場所なのですね。

内海：そうなんです。一応僕らが主宰なのでミルクボーイが3本、他が2本ずつネタをやる。トップに僕らが出て、間に3組やって僕らが出てまた3組やって、トリも僕らが務める。自分たちにめっちゃプレッシャーをかけて逃げられへんようにしてやってのが良かった。それでM-1獲れたので。マジで「みんなでM-1獲る」が目標かもしれない。だから僕らはM-1獲るぐらいのネタの指標じゃないですけど、それぐらいの意識で今後もやっていかなアカンのかなと。特にみんなの前ではヘラヘラと変な漫才はできへん。

駒場：スベりますしね、このライブに来てくださるお客さんの前では。3組とも面白い後輩ですし、変なことしたら全然負けますので、負けてられへん(笑)！

最後に恒例の質問です。お二人が「咲くやこの花賞」を贈呈したいと思う大阪の好きなところを教えてください。

駒場：僕は大国町の「珈琲館サモア」ですね。僕らがインタビューとかでよく名前を出さしてもらったこともあって、「ミルクボーイといえばサモア」みたいになって。今僕らが出演させてもらってるインターネット番組、eo 光チャンネル『ミルクボーイの伝説少年』にもママが毎回レギュラーで入ってきてるんです(笑)。ママに指令をもらって、僕らがその指令通りに動くという番組です。以前はモーニングとかでも普通に行かしてもらってたんですけど、M-1優勝してから、より一層お世話になっている。喫茶店としても大国町で40年ぐらい歴史がある場所なので、ぜひ贈呈したいですね。

内海：僕は「天王寺住みます芸人」でもあるので天王寺。もう12、13年は住んでます。開発された部分と下町情緒と、あとは人情のある町だと思います。人情は大事です。婚姻届けも天王寺の区役所に提出して、天王寺区内で引っ越しました。みんな住みやすいって言いますね。僕の周りでも、結婚して子供さんができたから天王寺に引っ越して来たっていう後輩芸人とかもいますし。子育てしやすいのかなと。天王寺

区での仕事も結構あったんですけど、コロナで地元の方との触れ合いが減ってるので、また夏の区民祭りで汗だくのおばあちゃんたちとフォークダンスを踊りたいですね(笑)。今まではM-1獲ってなかったの、ただ「芸人が来る」というだけやったんですけど、「M-1チャンピオンが来る」となったら喜んでもらえるのかなと。天王寺も盛り上がってくれたら嬉しいですね。



【略歴】ミルクボーイ

◎内海崇(うつみ・たかし)1985 年、兵庫県姫路市出身。大阪芸術大学映像学科卒業。

◎駒場孝(こまば・たかし)1986 年、大阪市住吉区出身。大阪芸術大学放送学科卒業。

共に NSC 大阪校(一般 27 期扱い)、NSC 吉本興業大阪本部所属。大学在学中の 2007 年、コンビ結成。2010 年まで「base よしもと」、2014 年まで「5up よしもと」、現在「よしもと漫才劇場」など活動中。主なレギュラー番組に、ABC テレビ『今ちゃんの「実は…」』、eo 光チャンネル『ミルクボーイの伝説少年』。

【受賞歴・受賞候補】

2019 年「第 8 回 関西演芸しゃべくり話芸大賞」グランプリ受賞、2019 年「M-1 グランプリ 2019」優勝、2020 年「第五回 上方漫才協会大賞」話題賞受賞、2021 年「第六回 上方漫才協会大賞」大賞受賞。2021 年「関西元気文化圏賞」ニューパワー賞受賞。

【公式 HP】

[Youtube: ミルクボーイ公式チャンネル](#) [Twitter : \(@MILKBOY_info\)](#)